

令和7年度
教科名等

芸術(美術) 科

科目名	対象学年	対象クラス	単位数	分類	予定時数
美術Ⅱ	2	A B C D E F	2	必修選択	70 時間

教科担当・教材等

授業担当者名	
教科書	美術2(光村図書)
使用教材等	鉛筆 絵の具 指輪鑄造セット 木彫手鏡 彫刻刀 紙やすり ニス 他

科目の目標

学習目標	【知識及び技能】 多様な表現の技法を学ぶと共に製作工程を考え仕上げていける技能を養う 【思考力、判断力、表現力等】 自由な発想で表現できる力を養うと共に、アイデアから表現し作品として仕上げていく工程を考え実現する力を養う 【学びに向かう力、人間性等】 課題に対して集中しよく考え、全体の作業を計画し完成まで仕上げていく力を養う
------	--

年間授業計画

学期	単元・単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価基準
1	A オリエンテーション B 静物画 着彩 【知】モチーフの持つフォルムや立体感、色を認識し理解するとともに、平面上に表現できる技術を養う 【思】よく観察し、物の持つ量感、色、空間等を理解した上でそれをどう平面上に表現していくのかを考え実践する 【態】立体感、パース等を良く検証し、デッサンできる態度を養う C デザイン 【知】色の成り立ち、配色による効果などを理解する 【思】どのような形や配色により表現したいものを観る側に届けられるかを考えるとともに、自由な発想でデザインできる表現力を養う 【態】発想からデザインと配色を考え計画的に完成させられる態度を養う	鉛筆デッサンの基礎 淡彩着色の技法 色彩の知識 混色と配色の知識 オリジナルの自由な表現を考える 仕上げの完成度	【知】技法等を理解し、技術と表現力が身についている。 【思】自由な発想で作品を表現している。 【態】完成までをよく考え、きちんと仕上げようとしている。
2	D 鑄造 指輪 【知】鑄造の仕組みを理解し、指輪を作ることを通し鑄造の技術を学ぶ 【思】どのような指輪を作るのかを考えデザインし制作する中で、工夫と自分の表現ができるよう取り組む 【態】原型をきちんと作る技術と共に、型取り、鑄込み、仕上げ、の工程を間違えなくこなせるようにする	鑄造の技術の理解 自由な表現のデザイン デザインからの元型づくり 鑄型の製作技術 鑄込みの技術 金属の成形と仕上げ 安全をよく考えた製作	【知】技法等を理解し、技術と表現力が身についている。 【思】自由な発想で作品を表現している。 【態】完成までをよく考え、きちんと仕上げようとしている。
3	E 木工 手鏡 【知】木彫の技術を学び、適宜彫り方を変えて表現し彩色できる技術を養う 【思】手鏡全体のデザインを自由な発想で考え、工夫し一つ一つの作品として完成させる 【態】デザインから完成までの工程をきちんと把握し完成させられる態度を養う F デッサン 【知】立体の量感、質感の表現方法を学ぶ 【思】よく観察するとともに、きちんとモチーフを表現できる力を養う 【態】モチーフの量感質感・パース形が、きちんと表現できているか検証しながら完成させられる態度を養う	木彫の技法 自由な表現のデザイン 木材加工の技術 彩色と仕上げの丁寧さ 鉛筆デッサンの基礎と応用	【知】技法等を理解し、技術と表現力が身についている。 【思】自由な発想で作品を表現している。 【態】完成までをよく考え、きちんと仕上げようとしている。

※生徒の理解度や担当者の工夫により進度が変わるため、必ずしも計画どおりに展開するものではありません。